

# 第78期事業報告及び計算書類報告の件

2023年6月23日

代表取締役社長  
西田憲司

# 1. 第78期決算トピックス

## 【売上高は17.6%の増収】 … 売上高6,331百万円

- ・ 製品・商品は748百万円の増収(前期比+16.5%)、切削屑は197百万円の増収(前期比+22.9%)。
- ・ 黄銅弁は19.7%の増収: [増収] LPガス容器用弁、設備用 [減収] バルク附属機器
- ・ 鉄鋼弁は10.0%の減収: [増収] 設備用、船舶用、低温弁 [減収] 車載用、バルク附属機器

## 【営業利益は265.3%増益】 … 営業利益264百万円

- ・ 概況:
  - － 黄銅材価格が1kg1千円という歴史的な水準で高止まりし、運賃その他の諸掛りも上昇を続けたことが収益圧迫要因となりましたが、全社的な経費削減努力を継続しつつ、製品全般の値上げをさせていただきましたので、大幅な収益改善を達成することができました。
- ・ 今後の見通し:
  - － 製品値上げにより売上高が全体的に底上げされていますが、新事業分野の立上げにはなお時間を要しますので、売上高は微増で推移すると予想します。
  - － 当面は諸物価の上昇が続くと思われるので、引き続き全社的に経費削減や生産性向上に努め、収益確保を図ります。
  - － 次期以降、生産性向上のために機械設備の更新を実施していく予定です。

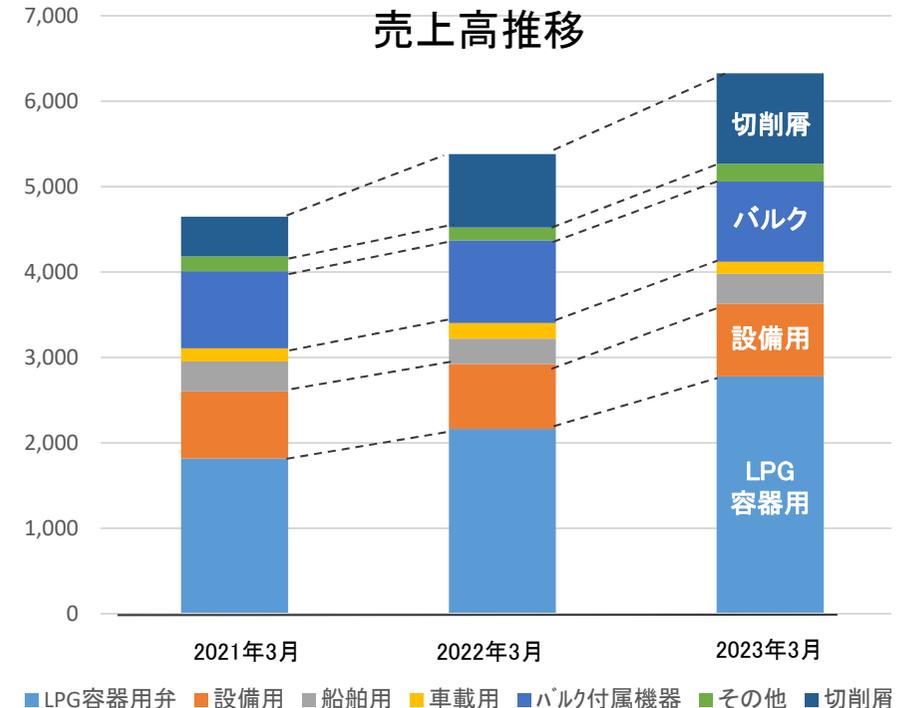
## 【期末配当】

- ・ 第78期の期末配当(1株につき2円)を本総会の第1号議案として上程させていただきます。

## 2. 売上高

単位：百万円		2021年 3月	2022年 3月	2023年 3月	23-22年 増減
黄銅弁	LPG容器用弁	1,817	2,165	2,779	614
	設備用	316	305	320	15
	バルク付属機器	585	644	628	▲16
	その他	0	0	0	▲0
	小計	2,719	3,115	3,728	613
鉄鋼弁	設備用	470	453	531	78
	車載用	154	183	140	▲42
	船舶用	350	298	350	52
	バルク付属機器	317	322	311	▲10
	その他	54	58	113	54
	小計	1,347	1,316	1,448	131
	その他	120	93	96	2
	切削屑	464	860	1,057	197
	合計	4,652	5,386	6,331	945

(百万円)



- ・LPG容器用弁：  
数量増と値上げにより大幅増収となりました。
- ・バルク付属機器：  
2024年にかけて交換需要がピークアウトしていく見込みです。
- ・鉄鋼弁 その他：  
LNG低温弁、液体水素弁が売上増に貢献しました。

### 3. 収益状況

単位：百万円	2021年 3月	2022年 3月	2023年 3月	23-22年 増減
売上高	4,652	5,386	6,331	945
(うち切削屑)	(464)	(860)	(1,057)	(197)
売上原価	3,887	4,542	5,144	602
売上総利益	765	844	1,187	343
販管費	681	772	922	150
営業利益	84	72	265	193
営業外損益 NET	▲5	▲14	▲7	7
経常利益	79	58	258	200
特別損益 NET	1	▲5	1	6
税引前利益	80	53	259	206
法人税等	35	13	26	13
当期純利益	45	40	233	193

#### 【売上高総利益率】

2021年3月	16.4%
2022年3月	15.7%
2023年3月	18.7%

#### 【売上高営業利益率】

2021年3月	1.8%
2022年3月	1.3%
2023年3月	4.2%

#### 【2023年3月期】

- LPG容器弁の数量増加と製品全般の値上げにより売上高が大幅に増加しました。それに加え、経費削減努力を継続しましたので、順調な収益改善を果たすことができました。

#### 【事業ポートフォリオの再構築】

- 今後も全社的に経費削減、生産性向上に取り組めますが、既存の事業だけでは持続的な業容拡大、収益改善が困難と判断し、事業ポートフォリオの再構築に取り組んでいます。
  - ・ 食品加工分野での製品開発
  - ・ 業務提携による低温弁事業の抜本的強化
  - ・ 業務提携による半導体製造用バルブの開発
  - ・ 業務提携によるLPG製品の中国市場進出
  - ・ 業務提携による産業ガス容器バルブの販売

## 4. 財務状況

単位：百万円	2021年 3月	2022年 3月	2023年 3月	23-22年 増減
流動資産	3,717	3,538	3,406	▲132
うち現預金	291	281	377	96
うち受手・売掛金	1,285	1,390	1,249	▲141
うち商品・製品	1,428	1,228	1,143	▲85
うち原材料	633	603	615	12
固定資産	4,579	4,637	4,734	97
資産合計	8,296	8,175	8,140	▲35
流動負債	2,389	2,389	2,270	▲119
うち支手・買掛金	412	609	626	17
うち借入金	1,626	1,419	1,101	▲318
うち未払金	93	139	127	▲12
固定負債	2,046	1,905	1,789	▲116
うち借入金	878	641	473	▲168
純資産	3,861	3,881	4,081	200
うち利益剰余金	194	235	420	185
負債純資産合計	8,296	8,175	8,140	▲35

### 【トピックス】

- ① 商品・製品在庫  
商品・製品の在庫回転期間が2.6ヵ月であり、当期も事業環境にあわせた適切な在庫水準を維持しています。
- ② 借入金  
借入金の返済が進んでおり、資金調達余力が出来てきましたので、次期には機械設備更新と醸造所建設に着手する予定です。

### 【財務指標】

- いずれも健全性を維持しています。
- ① 流動比率(流動資産/流動負債)
 

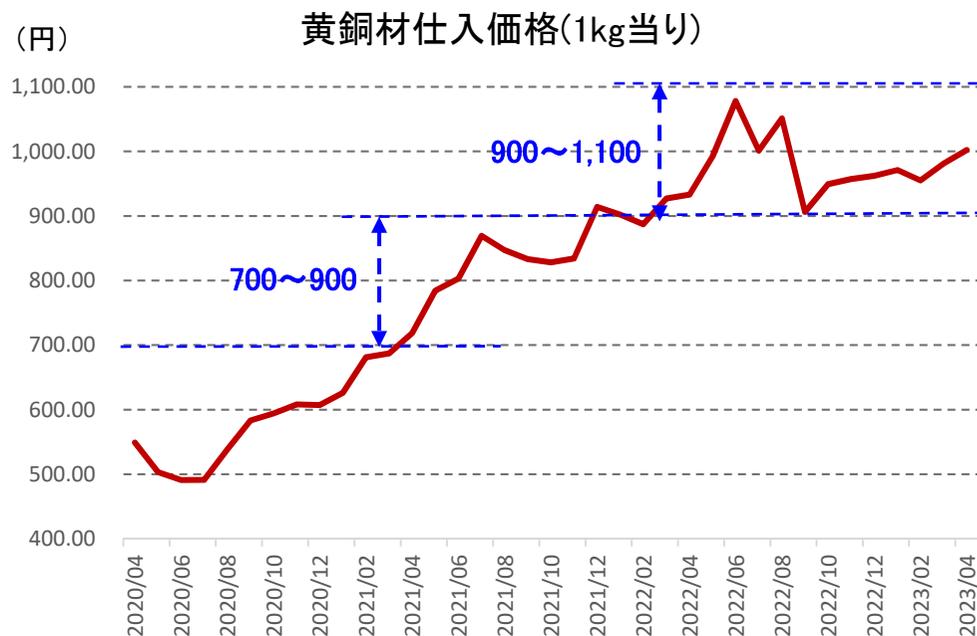
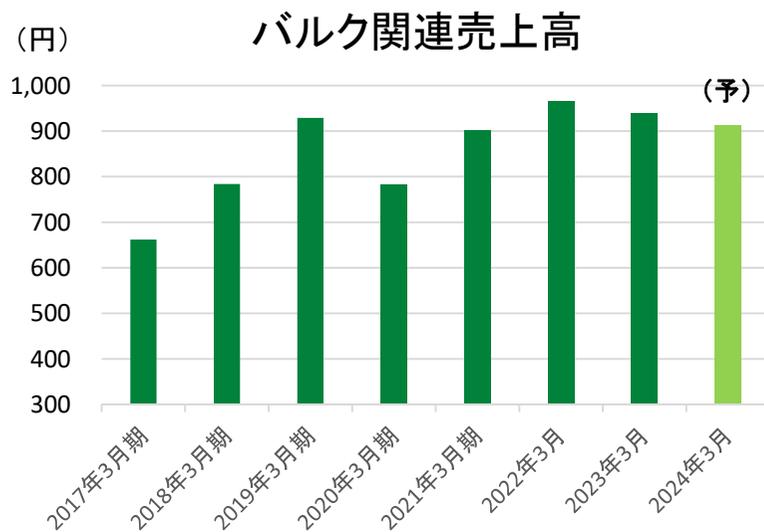
2021年3月	155.6%
2022年3月	148.1%
2023年3月	150.0%
  - ② 自己資本比率(純資産/総資産)
 

2021年3月	46.5%
2022年3月	47.5%
2023年3月	50.1%

# 5. 79期(2024年3月期)業績見通し

(百万円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想
売上高	6,331	6,500
営業利益	264	240
経常利益	257	220
当期純利益	233	200
配当予想	期末 2円	期末 2円

- ・ 2017年に始まったバルク附属機器の交換需要がピークアウトをし始める見込みですが、当期に実施した製品値上げの効果により、79期においても売上高は緩やかに増加すると予測しています。
- ・ 黄銅材の価格は2020年6月より急騰し、当期においては高止まりで推移してきましたが、世界的なインフレ傾向や円安動向を踏まえると、価格高騰が再燃する可能性を排除することができません。また、諸物価も上昇傾向にありますので、79期は収益的に厳しくなると予想しています。



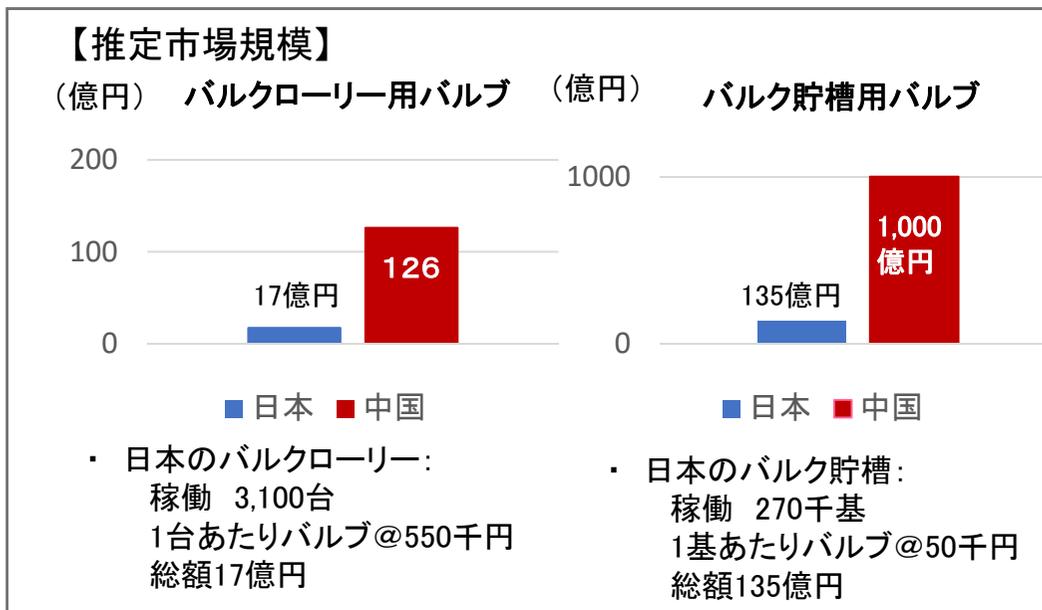
## 6. 事業展開

	コア事業	拡大事業	新事業	提携事業
分野	LPG	LNG・水素	食品加工用機器 アグリ事業	産業ガス分野
78期 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品値上げを実施</li> <li>LPG事業の中国進出に先立ち、製品販売代理店の候補先を選定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>液体水素用バルブ、LNG燃料船用バルブ、液体窒素ローリー用バルブの販売</li> <li>業務提携先の低温バルブ情報の共同活用準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品加工用機器開発                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ろ過機大型化</li> <li>ワイン充填機</li> <li>すし酢・赤飯渋汁散布ノズル</li> <li>液体窒素注入器</li> </ul> </li> <li>アグリ事業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>きくらげ菌床生産</li> <li>ぶどう苗木植付</li> <li>ワイナリー建設準備</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体用クリーンバルブの完成 (MS-IVT)</li> <li>Cavagnaとの提携関係再構築</li> </ul>
79期 実行計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>LPGその他製品の中国代理店による販売を開始する</li> <li>事業として中国進出が可能かを見極める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>液体水素、LNG液体窒素、アンモニアのバルブを強化する</li> <li>業務提携先の低温バルブ情報に基づき製品化を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぶどう除梗、破碎、搾汁機器を開発してタンク以外の醸造機器一式を品揃えする</li> <li>サニタリーバルブの品揃えを強化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリーンバルブの量産、販売強化</li> <li>産業ガス分野への進出検討を行う</li> </ul>

# 7. LPG事業の中国進出

- ・ 現下の国際政治における中国の立ち位置により、中国経済は停滞気味であり、農村部におけるLPG利用促進方針(2021年2月中国共産党中央委員会決定)が棚上げになっているようです。
- ・ 上記に加え、コロナ禍により中国への渡航が制限されてきたこともあり、情報収集が困難であったので、LPGバルク貯槽の需要についての判断が出来る状態にはありません。
- ・ しかしながら、事業進出プロジェクトを推進する過程で、上海のバルブメーカー1社が当社の代理店活動を行いたいと申し入れてきましたので、まずは製品輸出からスタートして、中国市場の動向を掴んでいきたいと考えています。

## 【当初の思惑】




中国では、今後5～10年の間に、1,000～1,100億円のローリー用、貯槽用のバルブ類が設置される可能性が高いと予想します。

- 年間100～200億円の市場規模
- 10%のシェアでも、年間10～20億円のビジネスとなります。(当社の日本でのシェアは60%)

# 8. 低温弁事業

## 【液体水素用バルブ】



【LNG燃料船用バルブ】 © 岩谷産業株式会社様

\* 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)様

## 【空気分離装置用バルブ】



\* 太陽日酸株式会社様提供

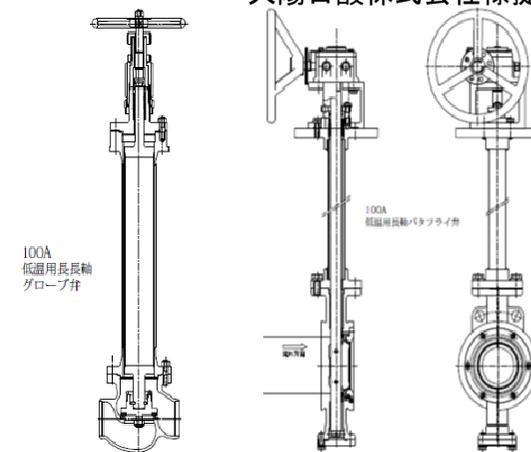


## 【液体窒素用バルブ】



\* 株式会社三井E&Sホールディングス様

\* 日酸運輸株式会社様

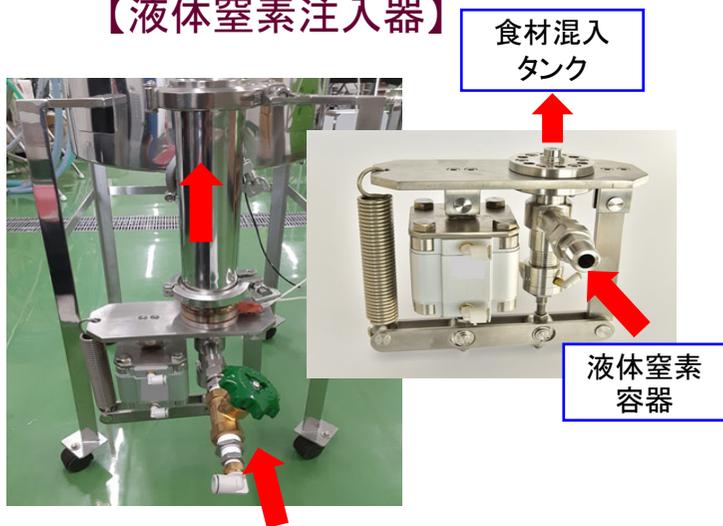


# 9. 食品加工用機器

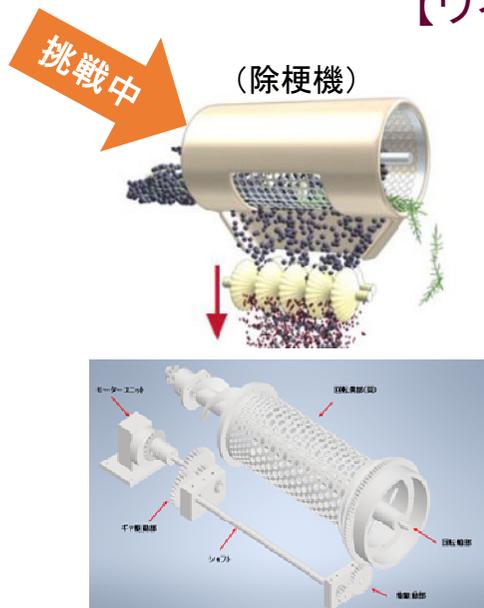
### 【調味液散布ノズル】



### 【液体窒素注入器】



### 【ワイン醸造機器】



### (充填機)



### (ろ過機)

### (サニタリーバルブ)



# 10. 新製品

【半導体用クリーンバルブ】



【アンモニア燃料船用バルブ】



【超低温冷却装置用可溶栓】



現LNG燃料船をアンモニア燃料船に改造されます。

# 11. アグリ事業

## 【ぶどう畑の整備】



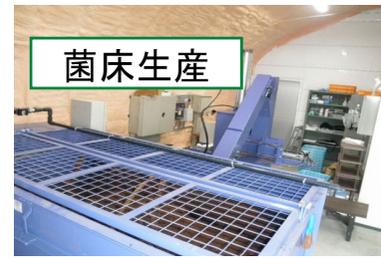
## 【ワイナリーの建設】



## 【醸造計画】

- ・2024年9月買入れぶどうによる醸造開始
- ・2025～6年自社ぶどうを増やし2027年には全量自社栽培に切替
- ・年間20千本のワインを製造する

## 【きくらげ一貫生産】



## 【宣伝チラシ】



## 【甲府駅観光ショーケース】



# 12. 製造部門トピックス

- ・ 安全性向上と生産性向上を図るため、設備投資を積極化しています。

## 【生産性向上のための設備投資実施】

(複合加工機導入)



(材料切断機更新)



(ゴムシート自動抜機)



## 【生産性向上のための設備発注】

(熱間鍛造300tプレス)



(中空鍛造用電気炉)



## 【安全性向上のために更新する設備】

(廃液処理施設)



# 13. 事業戦略

- あくまでも、LPガス供給機器の製造で培った要素技術を活かした事業展開を図ります。

